

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email:se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ http://www.unicef.or.jp 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

モルドバの 人身売買



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

国名	モルドバ共和国
面積	3.4万平方キロ
人口	427万人(2002年)
首都	キシニョフ
幼児死亡率	1000人中27人(2002年)
5歳未満児死亡率	1000人中32人(2002年)
1人あたりのGNI (国民総所得)	460米ドル(2002年)

国データは主に「世界子供白書2004」による。

世界では現在、年間70万人から400万人が人身売買の犠牲になっており、そのうち18歳未満の子どもは120万人と推定されています。90年代に入ってからヨーロッパの子どもたちも多く売買されていることが明らかになりました。日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんは今年4月にモルドバを訪問しました。ヨーロッパの中でも貧しく、人身売買の被害者も多いとされている国です。

最大の被害国

人身売買は正確な情報や統計を得ることが難しい問題ですが、保護された子どもたちの最近のデータによると、その被害者はヨーロッパの中でモルドバが一番多いことが明らかになりました。モルドバは人身売買の最大の被害国なのです。この国では毎年数千人の女性が、人身売買の被害にあっており、その中には18歳未満の子どもたちも数百人はいると考えられています。

モルドバは1991年に旧ソビエト連邦から独立したものの、急速な市場経済への移行に伴い、国内が混乱状態に陥りました。国民の5人に1人は1日1ドル以下の生活を余儀なくされていると言われ、高い失業率の多くを占めているのが青年層です。こうした背景から、4人に1人が国外への出稼ぎに出ています。正式に仕事

についている人もいますが、不法に滞在して働いたり、だまされて人身売買の犠牲者となる女性や子どももいると言われていきます。ユニセフは90年代に入ってからこの問題に注目し、モルドバのユニセフ事務所でも特別のグループを作って取り組んできました。



虐待児童相談所 ©日本ユニセフ協会/2004/K.Shindo

貧困から抜け出すはずが…

貧しい暮らしから抜け出したい、家族の生活の支えになることができれば、と思っている子どもたちに「外国にいい仕事があるから紹介するよ。でも他の人には言っははいけないよ」と口止めをして連れて行き、国外に送り込むブローカーたち。子どもたちは売買されたことも知らず、見ず知らずの土地に不安を覚えながらも「いい仕事」と信じています。ところが、実際に紹介される仕事は物乞いだったり、家事労働にしばりつけられたり、女の子であれば売春を強要されるのです。仕事を拒否すれば容赦なく殴られます。逃げようとして見つければひどく殴られます。助けを求めたくても、言葉が通じません。子どもたちは逃げることができないのです。

なんとか逃げ出して、警察に保護され、戻って来ることができた子どもや、ユニセフの支援を受けて学校に通えるようになった子どももいます。売春を強要された結果、妊娠してしまった子どももいます。保守的な国であるモルドバでは、父親のわからない子どもを連れてきた女性には、非常に厳しいのです。そのため、こうした女性たちの心の傷を癒し、社会復帰のための施設が必要です。

ユニセフの取り組み

ユニセフでは「子どもフレンドリー・ウィング」というリハビリセンターをつくったり、他団体のリハビリセンターを支援したりしています。子どもたちは時間をかけながら、心に負った深い傷を治していくのです。

ユニセフは、子どもたちの将来を奪ってしまう人身売買を未然に防ぐための活動もしています。NGOと協力して、子どもたちがだまされないために相談所を作ったり、仕事につくための技術を身に付けるためのプログラムを作ったりしています。また政府とは法律をつくったり、連携して国際的な協力を呼びかけたりしています。

私はボーイフレンドに「婚約指輪をモスクワまで買いに行こう」と言われて、とても嬉しかったから一緒にモスクワに行ったの。でも彼はブローカーで、私は売春宿に売られてしまいました。何とか逃げ出そうとしてビルの6階から飛び降りたから、足に大きなケガを負ってしまいました。



私は村の知り合いの女性に「宝石を売る良い仕事があるよ。でも、良い仕事だから家族にも言っははいけないよ」と言われたの。お母さんを楽しませてあげられるなら、とお母さんには嘘をついて女性について行きました。ついた先ではニセの宝石を売る訓練を受けて、商売をさせられたの。でもなかなか売れない。売れないとぶたれるし、売れてもお金はすぐに取り上げられてしまいました。反抗したため、ビンで頭を殴られて大怪我をしたので、病院に行きました。病院の先生に私の話をしたら、先生が私を逃がしてくれたのです。一生懸命車を乗り継いでなんとかモルドバに帰って来られたのです。



日本ユニセフ協会の取り組み

日本ユニセフ協会では、子どもの人権を踏みにじるこの問題に対する取り組みを続けています。「児童福祉法（子どもの人身売買に関する国内法）」の改正案と「児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律（以降「児ポ法」と表記します）」の改正案

が成立するように署名を集め、国会に請願書を提出しました。「児ポ法」を改正する法律案は2004年の159回国会で成立し、2004年6月18日付けで公布、7月8日に施行されました。

今後も子ども人身売買をなくすための活動に、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

日本ユニセフ協会のホームページでは、子どもの人身売買に関する情報を提供しています。アグネス・チャンさんのモルドバ視察報告もご覧いただけます。

ホームページ

<http://www.unicef.or.jp>